

氏名	高木 弘誠
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5800 号
学位授与の日付	平成30年9月27日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Effect of an enhanced recovery after surgery protocol in patients undergoing pancreaticoduodenectomy: A randomized controlled trial (膵頭十二指腸切除術におけるERAS(Enhanced recovery after surgery)の有効性に関するランダム化)
論文審査委員	教授 岡田裕之 教授 豊岡伸一 准教授 堀田勝幸

学位論文内容の要旨

膵頭十二指腸切除術(pancreatoduodenectomy:PD)は高侵襲手術で、術後合併症が高頻度で発症する。PDにおける Enhanced recovery after surgery (ERAS)プロトコルの有効性は明らかでない。

本研究で我々は、前向きランダム化比較試験を施行し PD における ERAS の安全性と有効性を検証した。主要評価項目は術後入院期間、副次評価項目は術後合併症率、退院時 QOL (QoR-40J)、再入院率、医療費とした。80 名中 74 名をランダム化(従来管理群 37 名, ERAS 群 37 名)。平均入院期間は ERAS 群で有意に短かった(20.1 ± 5.4 日 vs. 26.9 ± 13.5 日, $P < 0.001$)。ERAS 群にて合併症率($P = 0.038$)、再入院率($P = 0.038$)は有意に低く、退院時 QOL($P = 0.022$)は有意に高値であった。医療費は両群間で有意差は認めなかった($P = 0.085$)。

これらの結果は、PD において ERAS プロトコルは安全で有効であることを示唆し、ERAS は術後回復を促進し、入院期間の短縮に寄与する新しい治療戦略になり得ると考えられた。

論文審査結果の要旨

膵頭十二指腸切除術 (PD) は高侵襲手術で術後合併症の頻度が高いので、合併症軽減、術後早期回復を目指した取り組みは急務である。

術後の回復促進に役立つ各種のケアをエビデンスに基づき総合的に導入した集学的リハビリテーションプログラムである Enhanced recovery after surgery (ERAS) プロトコルの有効性を明らかにするために、従来の治療群と ERAS 導入群との比較検討を行った。主要評価項目である術後入院期間は ERAS 導入群で有意に短縮した。さらに副次評価項目である合併症の軽減、QOL の改善、さらに医療費の軽減についても ERAS 導入群が優っていた。

この研究は PD において ERAS プロトコルは安全で有効であることを示し、ERAS が術後回復を促進し、入院期間の短縮に寄与する新しい治療戦略になりうることを示唆した画期的な研究である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。